

# かけはし

2020  
Vol. 84  
March



言葉がわからなくても思いっきり体を動かして楽しむ「国際交流ふれあい運動会」  
子どもたちに見た日本のバレーボールアニメを思い出して、初めて触れるソフトバレーボールを夢中で追いかける人も。詳しくは6ページに。

7か国32人の外国の方が、地震や火災などの災害にあった時の対応を学びました。

最初は、災害時に使われる日本語と非常時に逃げ込む避難場所の存在を知ってもらい、その場所を地図で確認しました。そして、非常時に必要な水（1人1日3リットル）・食べ物・懐中電灯・ラジオを事前にバッグに準備することや、外国人で日本語の不自由な方の為の、住所・名前・勤務先・アレルギー等を書く緊急ノートを、日本語やローマ字で作成し準備することを学びました。

次は、実践の訓練です。「地震が発生しました」のアナウンスで各自机の下に隠れ、地震の揺れが無くなるまで待つように指示が出ました。揺れが収まれば慌てないで外に避難です。外には市消防署員が準備した煙のテントがあり、怖い煙から



どう逃げるかを教わりました。

その後は、普段触ることのない消火器の使い方の訓練を全員が受けました。現場に配置されているのは粉末消火器ですが、訓練では水消火器を使用して手順を学びました。室内に戻り、AEDの使用方法和心臓マッサージの仕方を全員が体験しました。これで緊急時に恐れなくて人命救助が出来ます。



また、防災教室の合間の昼食には、国際交流協会のクッキンググループボランティアにより準備された温かく美味しい食事を取りました。

午後は、警察署員による講演を聞き、大きな災害が起これば大規模な停電に見舞われ、すぐには復旧しないので、その間は各自が対応しなくてはならないことを教わりました。（佐野）

## 日本語の教え方セミナー

## ～YWCAの講師をお呼びして～

本庁舎会議室 12.6 基礎編、12.13 応用編

2019年12月現在、一宮市では6,763名の外国人が住み、外国人と交流の機会が増えています。本講座への関心は高く、参加した人達からは、「日本語を教えることに関心がある」、「日本語を教えてほしいと言われている」、「まもなく職場で日本語を教えなければならない」、「会社の外国人に日本語を教えたい」などの話が聞かれました。

基礎編では、私たちを取り巻く外国人の現状と多文化共生の意義、外国人とのコミュニケーションのコツなど学びます。外国人に、いきなり難しい日本語は通じません。例題として、「火災発生」はどう説明すれば通じるのか、実技形式で授業が行われ、参加者は言い換えてみたり、手ぶりをしたり、一生懸命練習をしていました。

日本語を教えるには、教科書のほか、絵カード、写真、実物など、視覚教材等も使うと効果的だそうです。また、指導員が分から



ない質問が来た場合には、「いい質問ですね」と答え、「宿題として持ち帰る」などの具体的な方法を学びました。



応用編では、実際に生徒に教えるために必要なスキルを学びます。話し方の日本語文法は、機能に主眼を置いているため、学校で学ぶ文法とすこし異なるそうです。例えば、「新しい」を「い形容詞」といい、「有名な」を「な形容詞」と言うことなどを学びました。動詞も同様に、母音がiの「見ます、聞きます」、同じくeの「教えます、食べます」などの分類法を学びました。また、教えるツールとして次々にめくっていくカードの活用も有効だそうです。そこで今回は全員でこのカードを作り、説明練習をしました。各テーブルから笑い声などが聞かれ、たのしそうに学んでいました。（ドリアン）



カラフルな民族衣装で読み聞かせをしてくれた葛西マリアさんは、ペルーの北部トルヒーリョ（Trujillo）出身の日系三世です。日本に働きに行くお父さんに付いて初めて日本に来た時は、まだ大学生だったそうです。日本が気に入ったマリアさんは、大学を卒業後、再度来日し、日本語学校で日本語を勉強して、現在は、日本人の旦那さんとお子さんと岐阜に住み、通訳やスペイン語講師として活躍する傍ら、得意のダンスをステージで披露しているそうです。

今回の読み聞かせでは、「赤ずきん」と「祖母の家にて」の2冊をスペイン語と日本語で読ん



でくれました。赤ずきんは、日本で読まれている内容とほぼ一緒でした。「祖母の家にて」は、おばあちゃんと孫のお話で、日本にはないお話でした。ペルーの絵本はカラフルで、子どもたちをわくわくさせる内容で、絵本を楽しむのはペルーも日本も同じなんだっ！と思いました。

外国絵本の読み聞かせは、毎月第1日曜日の11時から30分、中央図書館5階の「おはなしのへや」で行われています。次回は4月5日です。ぜひお越しください。（ゆこ）



## JICAホームステイ体験記

11.16~17

今回はわが家にとって二回目のホームステイの受け入れ体験でした。ゲストは、アフリカ南部のマラウイから来たゼケゼケさんで、JICAの研修で日本に来ていました。笑顔の素敵な男性で、ずっとニコニコされていたのですぐに緊張もほぐれました。

お子さんが2人いるということで、顔合わせの時から話が盛り上がりました。お昼は回転寿司に行き、色んな生の刺身を体験してもらおうと思いましたが、牛肉のお寿司が美味しいと何度も注文していました。午後には真清田神社にいきました。最初は照れていた子ども達も、手をつないで楽しそうにはしゃいでいました。

JICAの研修で数週間前から日本にいるゼケゼケさんですが、まだお好み焼きは食べたことがないので、夜はお好み焼きを皆で食べました。宗教上の理由で豚肉が食べれないのでツナで代用しましたが、「美味しい！こんな素敵な料理をふるまってくれてありがとう!!」と言ってもらい、喜んでもらって私もとても嬉しくなりました。

翌日は一宮市博物館にいき、一宮や愛知にゆかりのある展示物を見ました。昔の農耕の様子がジオラマで再現されているのを見ると、その

ジオラマの細かさに驚いていました。

お別れでは子どもたちは寂しそうにしており、また遊びたい！と言っていました。うちには1歳の赤ちゃんがいて、男性に抱っこされそうになるとだいたい泣いてしまうのですが、ゼケゼケさんにはすっかり懐いていて抱っこされて嬉しそうでした。たった2日間ですがすっかり家族の一員になって、楽しく貴重な体験をすることができました。ホームステイの受け入れに迷っている人がいれば、ぜひ一歩踏み出してみてくださいね！（大野）





# 2019年度 友好都市トレビーズ市 市民交流事業 踊ってつなぐ一宮市とトレビーズの輪



イタリア共和国トレビーズ市 10.10～17  
竹扇 香梅(日本舞踊 竹扇流香梅会)

「友好都市提携をしているイタリア共和国トレビーズ市」との文化交流事業の一環として、日本舞踊をトレビーズの人たちに観てもらい、市民交流をしたいという問いかけに、マッツォッティ観光専門学校とCINEMA EDERAからお誘いを受け、一宮市国際交流協会の『友好都市交流推進事業』に応募し、事業採択されました。



ikiya/ジャパンフェスティバル  
(NIPPONBASHI) 事務局訪問



トレビーズ市役所を親善訪問



市内散策。トレビーズ市役所の方に案内をしていただきました。



トレビーズ市・おっぱいの像  
(昔はワイン！今は水が飲めます)



シネマ劇場「CINEMA EDERA」にて



日本舞踊を披露しました。



たくさんの笑顔と拍手をいただき感激しました。



日本舞踊実演後、劇場支配人たちと記念撮影



次の日は  
マッツォッティ観光専門学校にて



生徒さんたちが笑顔で踊ってくれたのが印象的でした。



日本舞踊実演後及び指導後の記念撮影



マッツォッティ観光専門学校の先生方と昼食会を実施。2020年の一宮市訪問の際に再会を約束しました。



本セミナーには13名（男5名、女8名）が参加し、市国際交流員のカサンドラさんが講師を務めました。

まずNZの国旗とマオリの旗の紹介から始まり、NZの国民について説明がありました。人口は480万人で、その構成は、ヨーロッパ系74%、マオリ15%、アジア系12%、パシフィック系7%、その他1%だそうです。合計すると100%を越えますが、国勢調査では自分が属する民族を複数答えることができるということが理由のようです。

マオリは、1300年ごろ南太平洋を渡ってきた先住民族で、“マオリ”とは普通という意味です。その後西洋人の入植により争いが起こりましたが、1931年の独立の後、1947年に主権国家となり、

現在に至っています。マオリの文化は、先だっのラグビーワールドカップで有名になった「ハカ」の紹介がありました。ハカはもともと戦いの前に気合を高めるパフォーマンス



ですが、いまではスポーツのみならず結婚式、卒業式などいろいろな場面で披露されており、全国大会もあるとのことでした。



ほかに、ホンギ、パ、マラエ、タ・モコ、ハンギなどが次々紹介されましたが、最後にティ・ラーカウとポイ・ラーカウという棒を使った遊びの紹介と体験がありました。ポイ・ラーカウは、数名が輪になって棒を立てておき、マタウ（右）、マウイ（左）の掛け声で自分の棒を手離し、指示された隣の棒が倒れる前につかみます。倒れてしまうと輪から外れて、最後に残った者が勝ちとなるものです。体験参加者は、楽しそうに遊びましたが、マオリ語の右と左に迷ったようでした。

参加者は、多民族のNZでは毎日の生活が国際交流だと理解したようです。（荒楠）

## お久しぶりです!ロザンナさん

本庁舎14階大会議室 12.3

一宮市で三年間国際交流員を務めて帰国したニュージーランド（以降NZ）出身のロザンナさんが一宮市に訪し、座談会が午前と午後の二部形式で催されました。

ロザンナさんはNZに帰国後、日本大使館勤務をしておられます。その仕事と近況についてスライドを用いて紹介が始まりました。大使館ではお互いをファーストネームで呼び合う、随分フレンドリーな職場だそうです。2019年はラグビーワールドカップが日本で開催されたので、ラグビーにまつわるイベント等の仕事が増えた



そうです。その他に、留学生派遣のお手伝い、日本への外国語指導助手（ALT）の先生の紹介や、日本料理や文化の紹介等、日本とNZの「かけ

はし」として、自分で企画した仕事もしていますと笑顔で紹介。プライベートでは、ウエリントンの一軒家の2階で妹さんとかわいい猫やウサギと一緒に住んでいますと、仕事と生活がとても充実しているようでした。



その後、座談会に入りました。久しぶりのロザンナさんは、「今の髪型がよく似合ってますね」、「なぜショートヘアーにしたの」、「ラグビーって分かりますか」、「小学生もラグビーってするのですか」など、矢継ぎ早に聞かれ、笑顔で答えていました。

参加者は、久々のロザンナさんとの再会と、現交流員との座談会を楽しみました。

（文：ドリアン、Photo：佐野）

# 国際交流ふれあい運動会

～みんなでつなごう!ソフトバレーボール～

総合体育館 1.19

今年のふれあい運動会は、岐阜にあるホツマ・インターナショナルスクール（日本語学校）の外国人30人と、木曽川文化スポーツクラブの59人を中心に116人が集まりました。

参加者は、まずルールを聞いてから、外国人と日本人の混合で18チームに分かれてソフトバレーボールを楽しみました。



外国人の中には、母国でバレーボールをやったことがない、これが初めてという方も多数いて、ネパールの方は、ここで習ったばかりの手の

組み方を私に見せてくれました。バレーボール、バスケットボール、クリケット、サッカー、長距離走などのスポーツに親しんできた外国人参加者たちは、好プレーの連続、鋭いスパイクを決めたり、ブロックで守ったり、ネット近くですとんと落ちるサーブを決めたりの大活躍で、ほんとに楽しそ

うでした。

スポーツクラブの子どもたちは、日頃の練習の成果を発揮し、外国人のお兄さんお姉さんに積極的に話しかけ、得点しても取られても、ハイタッチをして楽しそうでした。

優勝したのは、ライオンズ。小学生二人の大活躍もあっての圧倒的な強さ、全勝優勝でした。

後片付けをみんなでした後、スポーツクラブの子どもたちが雑巾掛けをしてくれたのであつという間に体育館の床がきれいになりました。

場所を移しての表彰式と親睦会での会話は、日本語。10月に来日したばかりの人も、来日してもうすぐ2年で日本語能力N2を持っている人も、上手な日本語を使ってたくさんおしゃべりしていました。

おやつを食べて、記念写真を撮って、国籍をこえた交流ができました。(ゆご)



## ボランティア交流会

# 日本文化満載

食べて、笑って、楽しんで!!

向山公民館 2.2

令和元年度のボランティア交流会に、外国人ゲスト37人、ボランティアとその関係者69人の参加がありました。

クッキンググループには、早朝から昼食を作って貰いました。節分に合わせて、豆まきの豆の入った炊き込みご飯や、鬼まんじゅうなど季節を感じるメニューを美味しく頂きました。

ゲストも日頃の緊張が笑顔に変わり、ボランティアの方は子連れの方がたくさんいて、子どもと一緒に交流を楽しんでいました。

ファッション138(いちのみや)による交流ゲームでは、オリンピックにちなみ、知っているスポーツ名を書くことを競ったり、チームで考えるゲームなどで盛り上がりしました。

最後には日本舞踊竹扇流香梅会の皆様による、舞踊を披露して頂きました。また、ゲストの女性5人に和服を着てもらい、オー・シャンゼリゼの

曲に合わせて、日本舞踊の体験を香梅先生から指導して貰いました。この会の皆様は、協会の交流事業で、昨年一宮の友好都市トレビーズを訪問しました。その時のスライドショーを見て、気持ちもお腹も大満足でした。新年度も、協力お願い致します。(みかん)







# おとなりさん



韓国水原市出身のイ・ヨンファ（이 영화）さんのご自宅を訪ねました。休みの日でしたが、直美さん（奥様）も一緒に笑顔で迎えてくれました。15年ほど前、直美さんが韓国で仕事をされている時、二人は出会いました。

まさか自分が日本に住むことになるなんて、夢にも思っていませんでした。当時、ほとんど日本語を話せませんでしたが、直美さんは韓国語が流暢なので心配していませんでした。

一宮の印象は、静かで、道がきれいで、人がいない！でした。知り合いもいませんでしたが、片言の日本語でも臆せずご近所さんに話しかけました。子ども会や地域の行事にも積極的に参加し、身近な人々を大切に、交流を楽しんでいます。ご近所の農家の方からは「キムチにどうぞ！」と毎年のようにたくさんの白菜をいただきます。直美さんは韓国料理も上手なので、日本にいても美味しいキムチを食べることができます。いつのまにか、一宮は親切な人がたくさんいる町に変わっていききました。



趣味は魚釣りで、韓国にいた頃は船で海に出て、一日中釣りを楽しんでいました。韓国では気軽にそんな遊び方が出来ました。ところが日本では、舟釣りは簡単ではなく、来てすぐは手軽な小鮎やはぜ釣りから始めました。やはり大きな魚を釣りたい！と思うようになり、今は、グレや黒鯛釣りに挑戦しています。大きな魚も堤防から釣れるのは日本の良いところです。2年ほど前、釣具屋の秋田さんと出会い、より世界が広がったと思います。やはりことばがうまく通じないこともありますが、ことばよりも気持ちが通じ合っています。釣りについていろいろ教えてもらい、おかげで大きな魚も釣れるようになりました。いつか家族で五島列島へ行き、70cmくらいの黒鯛を釣ってみたいです。

終始穏やかなイさん。途中から同席した小学4年生の息子さんも含め、毎日の生活が充実していることが伝わってきました。その息子さん、お父さんとは韓国語で話すそうですよ。両親どちらのことばも大切にしていることも素敵なことだなと思いました。（森）

## iia information

### 国際理解教育ファシリテーター養成講座

国際理解ワークショップを体験し、ワークショップの進行役（ファシリテーター）の基礎を学びます。コミュニケーションや子育てにも役立ちます！

日 時：6月3日～7月8日の毎週水曜日  
午前10時～午後1時（全6回）

会 場：市役所本庁舎11階会議室

講 師：AIS（あいち国際理解教育ステーション）

受講料：無料

定 員：30名

申込み：4月24日（水）からiia事務局で受付（先着）

\*協会事業を支える国際交流基金への寄付を募集しています。また、一宮市の国際交流の中心となって活躍いただく親善ボランティアも随時募集しています。詳しくはiia事務局までお問い合わせください。

### 初挑戦！イタリア語講座

イタリア出身の国際交流員が、初心者向けの「見て、解って、習う」イタリア語講座を実施します！

日 時：5月8日～6月5日の毎週金曜日  
午後2時～4時（全5回）

会 場：市役所本庁舎11階会議室ほか

講 師：国際交流員ヴィニエラ・アレッシオ

受講料：2,000円（教材費を含む）

定 員：24名

申込み：4月17日（金）までにiia事務局まで（抽選）

### iia Facebookページ

イベントのお知らせや、外国人のみなさんに役立つ情報を多言語で発信しています。  
Multilingual posts about event notices and helpful information for foreign residents.



## タイ バンコクの幼稚園で

荒川 千夏

2016年から2019年の3月まで、タイのバンコクにある在住日本人向けの幼稚園で教諭として働いていました。

もともと東南アジアが好きで、働いてみたいと思っていました。とはいえ、語学はまったく自信がなかったので、比較的日本人が多く、園内でもほぼ日本語で過ごせるタイの日系の幼稚園にターゲットを絞ってインターネットで探していたら、ちょうど募集があって行けることになりました。

赴任した「ニューバンピーノ幼稚園」は、ナーサリーの1歳半から3歳までの子どもから、年長さんの6歳児まで全体で200人ほどの子どもがいて、職員は、日本人が10名ほどと、タイ人がバスの運転手や給食の調理人も含めて20人ほどいる、比較的大きな規模の幼稚園です。入園条件として、仕事でタイに赴任している日本人の子どもか、日本人と結婚しているタイ人の子どもしか入れません。親の仕事の関係で、1年～3年ぐらいの短いサイクルで転出する子が多く、入れ替わりが激しかったです。

園内では基本的に日本語で指導し、日本の幼稚園と同じようなカリキュラムで過ごします。行事も、七夕や七五三、もちつき、ハローウィン、クリスマスなども、日本に帰っても違和感なく過ごせるようにと同じように開催しています。それに加えて、「タイデー」という行事もあります。この日は子どもたちがタイの衣装に身をつつみ、登園してきます。タイの伝統の踊りや、楽器、スポ

ーツ（ムエタイ）のショーを見て、幼稚園給食でもタイ料理が出ます。また月に一度、「タイ文化教室」と言って、タイ語での挨拶、自己紹介の仕方やいろいろな物の名前など、タイの文化に触れる時間もありました。英語による授業も週1回あって、長期休暇の間には、10日間ほどのイングリッシュ・コースが開催され、外国人講師によって英語によるカリキュラムが行われます。

タイの気候は平均気温が26～27度。一年で一番暑いのは4月頃で、40度ぐらいになることもあります。そのため日本でいう春休みが一番長く、3月半ばから4月末までがお休みで、新学期は4月末から始まります。夏休みは8月上旬から9月上旬まで、冬休みは12月半ばから1月の始めまでです。

幼稚園の勤務は平日の朝7時半から午後5時までだったので、仕事の後などに幼稚園のスタッフと一緒に食事をしたり、日本より安いのでマッサージやエステに行ったりしていました。タイからは、近隣のマレーシアやベトナムなどへも簡単に旅行に行けます。仕事をしながらも、いつでもリフレッシュ、観光気分が味わえて、タイでの生活はとても楽しかったです。

今年の春からは、一宮市にある育児サポート・キッズルーム「なごみん」が4月に開校するインターナショナルスクールで、副主任として外国人講師と一緒に保育のサポートをします。

タイでの経験が生かせるといいなと思っています。



シラチャにあるタイガーズにて

### 編集後記

おすすめの本を紹介します。フレディみかご著「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」は、アイルランド系英国人の夫との間に生まれた“息子”が通うイギリスの「元底辺中学校」での1年半を綴ったエッセイです。そこは、ハリーポッターではないリアルな社会の縮図。経済格差や人種差別が複雑にからみ合い起こる出来事を、私は他人事と思えません。1人でも多くの方が「他人の靴を履こうとすること」ができますように。意味は、本を読んで確かめてください。一宮の全図書館にあります。(たけうち)

発行 一宮市国際交流協会 (〒491-8501 一宮市本町2-5-6 一宮市生涯学習課内)

ご意見・ご感想お待ちしております 【TEL:0586-85-7076 E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】

当協会に関する情報はウェブサイト・Facebookページもご覧ください

【WEB:<https://www.city.ichinomiya.aichi.jp/iia/> Facebook:<https://www.facebook.com/iia138>】

\*この「かけはし」は、協会ボランティアにより取材・編集されています。

みなさんも国際交流協会親善ボランティアに参加しませんか？お気軽にお問い合わせください。